



地域なんでも情報局

第5号

平成23年12月1日発行

長崎市社会福祉協議会
長崎市上町1番33号

TEL: 828-1281

各地で始まる福祉のまちづくり

「長崎市地域福祉計画・長崎市地域福祉活動計画」やってみようで・わがまちささえあいプラン（以下、「ささえあいプラン」という。）の策定を目的に、平成20年度から22年度までの3年間に亘り、市内28地区で住民座談会が開催されてきました。



日頃、自分達が暮らすまちの良いところや気になる所（課題）をみんなでお話ししました！

グループで話し合ったことを、発表を通して参加者全員で共有！



どの公共マナーの低下に関する問題、その他「防災無線が聞こえにくい」、「避難場所が分からない」などの地域防災に関する課題など様々な地域課題が明らかになりました。

座談会では、参加者を6～8人の小グループに分け、「自分達のまちの良いところ」と「自分達のまちの気になること（課題）」というテーマで意見を出し合い、その意見を模造紙に整理しながら和気あいあいとした雰囲気の中で話し合いが行われました。自治会の加入率の低下や一人暮らし高齢者の増加に伴い日常生活に困る方が増えてきていることをはじめとした高齢化に伴う問題の他、ゴミの出し方や犬・猫の糞尿被害など



出来あがった「ささえあいプラン」

このような座談会の結果を踏まえ、平成23年3月に「ささえあいプラン」が策定されました。この「ささえあいプラン」は、本市における福祉のまちづくりの方向性やポイントが示されており、この計画に基づいて行政の各種福祉サービスや市社協の事業が推進されていくこととなります。一方で、この「ささえあいプラン」はあくまでも全庁的なものであり、地理的な条件やそこに暮らす住民の生活様式、文化、価値観などの異なる地域ごとにその活用方法も違ってきます。

計画づくり

そこで、概ね市内の小学校区ごと（※社協支部単位）でその地域における福祉のまちづくり計画（以下、「小地域計画」という。）を策定し、計画的にまちづくりを進めていくことになりました。従来の単年度の事業計画では、活動のマンネリ化やリーダー・役員の交代等で活動の方向性がその都度変わるということもありました。一方、小地域計画は、概ね5年間という中・長期的な計画を立て、座談会などで明らかにした地域課題の解決を地域内の各種団体で協力しながら計画的に取り組むことで、活動の評価がしやすくなります。また確実に評価が行われることで、少しずつ活動の成果が積み上がっていきます。この点が小地域計画を立てて福祉のまちづくりに取り組む最も大きなポイントです。市社協では現在、座談会を終えた社協支部から順番に小地域計画の策定支援に入っています。既に計画の策定がスタートしている西町地区では、5年間で「災害にも強いまちづくり」という防災を軸にした計画を立て、活動に取り組んでいこうという動きが出てきています。また、座談会未開催地区に対しても小地域計画の策定を目指した座談会の開催を働きかけていきたいと考えています。

座談会参加者に聞きました！

～座談会に参加した感想～

- 自分が住んでいるまちを見直す良い機会になった。
- 同じ町内に住んでいる方と顔見知りになれてよかった。
- 自分と同じようなことをどうにかしなければと思っている人（仲間）がいて嬉しくなった。
- せっかくだらいいアイデアが出たんだから、そのままにしておくのはもったいない！出来ることから始めたい！
- 市内の多くの地域で座談会を開催していけば、長崎市民ももっと住みよいまちになると思いました。
- 数年に1回はこのような座談会を地域で開催して欲しい。

「避難所の運営」や「要援護者支援」に関することなどたくさんの課題が明らかになりました。



市社協西町支部での第1回策定委員会の様子（10月28日）

皆さまのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

市地域福祉推進市民協議会

去る11月1日（火）、第一回地域福祉推進市民協議会が開催されました。この協議会は、「ささえあいプラン」の推進に関する諮問機関として、市内の社会福祉関係者や市民団体等の代表19名で構成される機関です。「ささえあいプラン」策定後初めての会議となる今回は、座談会開催地区における小地域計画策定の動向（進捗状況）に関する報告を含むと座談会開催をきっかけに地域活動が活性化された地域の事例報告等というテーマで審議が行われました。委員からは「市役所や市社協でできること（やるべきこと）」と地域（社協支部や自治会等）でできることとの役割のすみ分けをしながら活動に取り組む必要があるのではないかと、「新たに座談会を開催する地区には既に座談会を終えた地域から出された意見を予めお知らせいただければ意見が出しやすいのではないか？」といった様々なご意見が出されました。また、座談会をきっかけに地域活動が活性化された事例として、ダイヤラド地区での「ささえあいの日」活動や小江原地区の「ふれあい朝市」などの活動報告が行われました。少子高齢化がますます進行することが予想される中、地域福祉の重要性はますます高まってきました。市では、「ささえあいプラン」に基づく地域福祉事業の推進と並行して、自治会や連合自治会、子どもを守るネットワークや社協支部など、現在地域に存在する様々な組織やネットワークの現状や動向を踏まえ、この地域コミュニティのあり方について検討し、同協議会では地域コミュニティのあり方についても併せて協議されていく見通しです。



大手町寺子屋

大手町自治会



公民館は、教育・学術・文化に関する事業を行う地域社会教育施設です。市内の公民館でも、日頃から様々な取り組みが行われています。また、比較的規模の小さな公民館は、自治会や老人クラブなどの地域の各種団体の会合や高齢者のいきいきサロン、子育てサロン等の拠点としても利用されており、住民に最も身近な施設と言えます。皆さまのお住まいの公民館はどのような状況でしょうか？さて、今回は大手町自治会で平成22年度から始まった「大手町寺子屋」をご紹介します。

「寺子屋」とは、江戸時代の庶民のための初等教育機関であり、武士・僧侶・医者・神職などが師となり、手習い・読み方・そろばんなどを教えた寺と言われています。大手町自治会では、子ども会が活動休止中という状況を受け、自治会をあげて地域の子どもの健全育成に取り組むことを目的に、平成22年度に自治会の中に少年部が組織されました。

「大手町寺子屋」も少年部の活動の一つで、普段地域の大人が主に使っている公民館を地域の子ども達に開放し、子ども達と自治会役員を

「先生、ここ教えて！」
はじめとする地域の住民との交流を深めることを目的に、夏休みや冬休み期間中に開催され、休みの前の休日に開催されることもあり、毎回たくさんの子も達に参加しています。また、宿題のサポートをしてくれる先生として、長崎大学の学生にボランティアで活動に協力していただいているほか、ホットケーキなどのおやつを婦人部の方々が準備したり、他の自治会役員の方々も子ども達の勉強を温かく見守っています。大手町自治会では、希望者がいれば周辺自治会の子ども達も寺子屋に積極的に受入れているそうです。その他、大手町自治会では、毎年3月に実施している三世代餅つき大会の他、自治会広報誌『大手門』を毎月発行し、自治会活動や町内の情報を住民の皆さまへ随時発信しているそうです。



餅つき大会の様子



大手町自治会の広報誌

「3丁目をきれいにしよう！運動」 ダイヤランド第3自治会 地域活動クラブ草刈隊の活動



あの人！どんな人！こんな人！
祝 貞之さん ダイヤランド三丁目

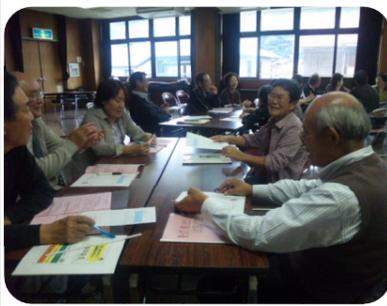
「福祉のまちづくり・わがまち座談会」（市・市社協共催）が行われ、道路に生い茂った雑草や木が話題に。ダイヤランド第三自治会では「今後どのようになり、人とのつながりが薄くなっている」と言われている今日、色々な活動を通して、目標（お互い顔見知りになることが大事ということ）を考へる機会になりました。「地域活動クラブ・草刈隊」を立ち上げることに決定。今年2月、自治会のみならず、隊員を募ったところ、予想を大きく上回る45名が入隊を希望。たくさんの方が「地域のために何かをしたい」と思っていました。隊長 祝さんもこれには驚くとともに男泣きしたと語ります。造成されて27年、長い間放置されたことで、伸び放題の草の山、除草作業は、時間がかかり、中でも、「野バラと蔓（つる）」は相当に難儀した」と苦労話を語る祝さんの笑顔が、印象的でした。これまでの草刈り作業は、計13回・参加延人数324名を数えます。五島灘に沈む美しい夕日が見える素晴らしい丘、海に背を向けると今度は青い緑山が広がる。7月2日には、長崎市から花木苗70本をいただき、一本一本をお世話してくれる方を募集。花木苗一本一本にそれぞれの名札を付けました。お一人お一人のその時折々の思いと共に、大きく成長することでしょう。そして、みんなが花咲く日を心待ちにしながら、活動中です。これからも、この活動を通して「心豊かな街づくりを！」と願い、さらに「桜舞う街の夢は広がります。」



女性パワーはすごい！

広がれサロン活動！

平成6年に全国社会福祉協議会（以下、「全社協」という。）が高齢者サロン（全国的には「ふれあいいきいきサロン」と呼ばれています。）を提唱して以降、高齢者サロンは全国的に広がっていききました。平成15年度の全社協の調査では全国に五二〇〇ヶ所以上存在していることが分かりました。もともとサロンとは、ヨーロッパ（特にフランス）で上流階級の婦人がその邸宅の客間で開いた社交的な集まりが言葉の起源と言われています。住みよいまちづくりを進める上でも、このようなサロンは、定期的に多くの人が集い、楽しいひと時を過ごす場所や機会というところで、現在では高齢者の介護予防や生きがいづくりを目的としたサロンや子育て中の親子を対象とした子育てサロンなど様々な形で市内でも展開されています。一方、サロンは楽しいひと時を過ごす場というだけではなく、井戸端会議のような地域で起きている様々な情報の収集や自治会からのお知らせを提供することや情報収集の場にもなっているようです。そのような状況の中、市社協においても高齢者サロンの拡大を目指すべく、市（すこやか支援課）や地域包括支援センターとの協働で、サロンの立ち上げや運営を行っているだけでなく人材育成の一環として「高齢者サロンサポーター養成講座」を実施しています。講座では、高齢者サロンの必要性やサロンで使えるレクリエーションなど体験をのりながら行っています。皆さまの開催の際には是非ご参加下さい。



式見地区での講座の様子

あとかき

私事ですが、10月に新天地へ引っ越し、新しい生活がスタートしました。自治会長さん宅へ挨拶に出向き、後日班長さんがわざわざ挨拶にいらしていただき、嬉しかった。「若い方が入ってくれて嬉しい！何かあったらいつでも連絡してね！」という優しい言葉に不安な気持ちもきれいきっぱり無くなりました。大したご協力はできないかもしれませんが自治会の皆さまどうぞよろしくお願い致します。

二代目 福祉の営業マン



安い・安心・美味しい！こえばる朝市



○毎月第3土曜日 10:00～
○場所：小江原第2集会所

「地域なんでも情報局（第4号）」でご紹介した鶴の尾団地自治会（東長崎地区）の住民による手作りの朝市が、小江原第2自治会でも6月から始まりました。町内の主婦が生ゴミを堆肥化して家庭菜園で育てた野菜や養鶏場から仕入れた新鮮卵等を求め毎回多くの住民が朝市に集まります。スーパーで買えない朝市特有の賑やかな会話が飛び交っています。また、自治会や老人クラブの男性陣による「包丁研ぎ（100円）」も世代を問わず主婦に好評のようです。「朝市は儲けず損せず、地域のつながりを収穫しよう！」という自治会長の掛け声のもと、小江原地区に根付いていくことでしょう。

小江原朝市